

平井島の

いいなり地蔵

平成十二年六月五日号

富士緑道の旧豎堀駅公園から北へ約四百メートルほど歩くと、左手に木造の建物があります。建物の中には、「いいなり地蔵」と呼ばれる、顔の細長いお地蔵さんが祭つてあります。今回はこのお地蔵さんにまつわるお話を紹介します。

昔はお地蔵さんがあるあたりにも富士川が流れていて、この地区は平らで島のようにであったために平井島と呼ばれています。

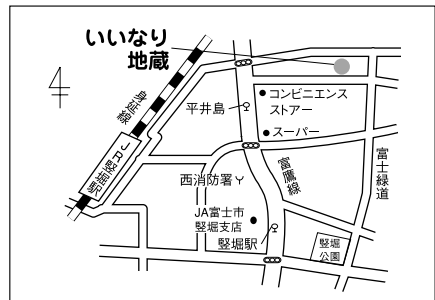
その昔、平井島付近の河原にお地蔵さんが流

れ着きました。お地蔵さんを見つけた村人は、このお地蔵さんを川のほとりに安置しました。

この地区の村々は、新田開発によって新しくできたものが多く、村人たちが心の安らぎを求める氏神などは、

初めのうちはなかったのでしょうか。村の生活が安定していくのに従って、このお地蔵さんもいつのころからか祭られるようになりました。

毎月十二日（十二日講）と、十四日の祭りの日には、近所の女性たちがお堂に集まってお題目を唱えています。毎年八月十四日には、本祭りが行われます。今では、昔のように露店がたくさん並ぶにぎやかなお祭りではありません。



せんが、お堂にのぼりをたてたり、お参りに来た子どもたちにお菓子を配ったりしています。

平井島地藏尊保存世話人会メンバー

遠藤 偵たをさん（松本）

平井島のいいなり地藏は、漢字で「言成地藏」と書くこともあります。だれがつけたというわけでもなく、いつのころからかそう呼ばれています。

以前、悩みをかかえた女性がこのお地藏さんにお参りを続けたところ、その悩みが解決したということです。その後もこの女性は、八月十四日の本祭りには、欠かさずお参りに来ていたそうです。

平成十年に、老朽化したお堂の修復を行いました。主に屋根と堂回りの修復でしたので、地区の皆さんの力だけで直すことができました。今では近所の方が交代でこのお堂を

管理し、守っています。

最近はお地藏さんのことを詳しく知る人も少なくなりましたが、地域の大切な文化財の保護のためにも、子どもたちをはじめ、もっと多くの皆さんにこのお地藏さんのことを知ってほしいですね。



いいなり地藏 ▶